平標山ヤカイ沢

2011 年 4 月 10 日(日) 山本実(L.記)、釣秀平

4/10(日) 晴

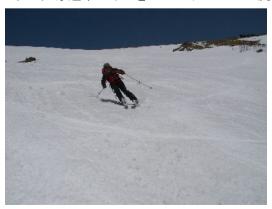
前夜、平標の登山口にある駐車場で車中 泊。早朝車が結構入ってきて7~8台となる。 ほとんどが山スキーのようだ。

7時ごろ駐車場発。天気は良い。別荘地の中の林道をぬけると、その先は除雪されていないのでスキーを履く。河内沢沿いに30分ほどで橋を右岸へと渡る。その先にヤカイ沢が左手から入り込み、登山道から離れて左岸沿いにまばらなブッシュ帯を緩やかに登ってゆく。c1300m辺りから左岸の尾根に取付くが、すぐ急になりスキーを担ぐ。釣さんはあくまでシール登行にこだわり、右手の小沢の方へトラバースして行ってしまう。こちらは急斜面を直登はいいが、すぐ息が上がり休みやすみ尾根へあがり釣さんと落ち合う。平標の主稜線は遠くないはずだ。一息入れていると早くもスキーヤーが下りてくる。



ヤカイ沢は上半分が扇状に大きく開けていて、一応左側と正面、そして左岸尾根との間の右側斜面と3つに分けられる。私たちはどこを滑るかまだ決めていないが、登りながら見ていたら正面は結構クラックが入っていた。右側はこの尾根からは見えない。主稜線を登りながら覗いてみると、クラックだらけの様相。残りは左側斜面。オープンバーンがクラックなしに下まで続いているラインが見える。結構急そうに見えるが向いあっているからだろうということで決定。まあヤカイ沢へ来て樹林帯は滑りたくないねと一応イッパシの口をきいてみる。

平標頂上で展望を楽しんで一休みしてから、松手山方面へツボ足で小鞍部へ下り、スキーを付ける。横ざまに見ると30度以上ありそうな結構な急斜面だ。稜線の肩の左側斜面をトラバースしてお目当ての斜面に達した。遮るものないオープンバーンが扇の要状のあたりまで続いている。勇んでというか恐る恐るというか斜面に飛び込む。急なので転んだら止まりそうにない。雪質はサラサラで潜りもしないので何とか気持ちよく降りてゆく。途中スキーをつっかけて4~5m流



れたが、回転して止める。大腿部の筋肉が 痛いが、要のあたりまでは兎に角滑降して ゆく。

ブッシュも出てきたので小休止。振り返ると 大斜面に私たちのシュプールが見える。時 計を見ると500mを20分少々で下りてきてし まった。下手の横好きでもスキーは早い。春 のうららな陽光を浴びながら釣さんと談笑す る。あとは出合までツリーランならぬヤブラ ンで30分ぐらい。今日のような条件だったら 毎年来てもいいなと思った。

駐車場 7:00~ヤカイ沢出合 8:00~平標 山11:00-11:30~出合 13:00~駐車場 13: 30